

(1) 実習で苦労したこと、失敗したことは何か、それをどうやって乗り切ったか

1番は、研究授業の教科を決めるのが遅くなってしまったことである。特に得意な教科があるわけでもなかったのも、「何でもいい」と思っていたのだが、逆に迷ってしまい遅くなってしまった。

附属では実習 1 週目から授業を受け持つことが多く、私の場合は 3 週目が毎日授業だったので(担当する授業があったので)、とてもハードな日々であり、十分に研究授業の準備が行えなかった。

早めに研究授業の教科を決め、土日を上手に活用して余裕を持って準備ができると思う。

(2) 実習に行って初めて分かったこと、嬉しかった出来事は何か

嬉しかったことは、授業参観や運動会の際に保護者の方に「〇〇先生ですね？」と声を掛けて頂いたことである。私と遊んだことや、言っていたことを子どもが家庭で楽しそうに話してくれたようで、わざわざおねを言いに来てくれたのだ。とても嬉しかった一方で、保護者のわが子や学校に対する関心の高さに驚かされた。附属小は特にそうだと考えるかも知れないが、私たちが考えている以上に教師や実習生の発言や様子は、保護者に届いている。(教師の方々も子どもを叱る時は、後ろにその子どもの保護者がいると思って叱ると言っていた。)このことを十分に意識して、子どもと関わっていく必要があると思う。

(3) 1 年生の担当になるにあたって事前の準備、心構え、注意点など

子どもの実態は、実際に会って毎日関わり^{いく中で}、やっと少し見えてくるという感じだったので、事前に何う強くしておく必要はあまりないように思う。むしろ基本的な生活習慣や体力をつけておくことがとても重要である。(1日中立ちっぱなしだったり、炎天下の中に長時間いたりするので。)

自己紹介は色々と悩むと思うが、私は絵や写真、クイズなどを入れて自己紹介紙装居をしたところ、なかなか好評であった。特に小学校の時のニックネームや、飼っているネコのことは子どもたちにとってインパクトがあったようで、最後までコミュニケーションをとる際に役立った。

何か一つでも「ネタ」を持っていくことをお勧めする。

(1) 実習で苦労したこと、失敗したことは何か、それをどうやって乗り切ったか

実習で苦労したことは、子どもたちの実態把握です。ふじのめ学級のように少人数の子たちとじっくり関わっていても実態把握はむずかしいのに 39 人の子たちとなるともっと大変です。授業でこの子はこんな発言をするのではないかと、この子をあてれば「授業がうまくはこぶ」のではないかと、事前に考えていても、その通りに行くことはほとんどありませんでした。もちろん、事前に考えていくことは大切だと思いますが、もっと大切なのは臨機応変に対応していくことだと思います。授業中は頭をフル回転させて、子どもと子どもの発言をつなぎあわせていくように努めるとよいと思います。という私もなかなかうまく発言をつなぎあわせたのですが...

(2) 実習に行って初めて分かったこと、嬉しかった出来事は何か

1 年生は本当に人なつこいんです!! 中休み、昼休みは、お絵かき、ケイドロ、かえるとり、運動会のためのトレーニング(?) など、色々なあそびにたくさんさそわれます。誘われたら、おもい、サリ遊びましょう! 昨日までは、あんまり近づいてこなかった子ども、休み時間に遊んだ後はいつの間にか近くにいます!! (笑) 信頼関係ができれば授業中も手を挙げてくれるようになります! すごく嬉しいです。

(3) 1 年生の担当になるにあたって事前の準備、心構え、注意点など

事前の準備は、なんと言っても ひらがなの練習を絶対していった方がいいです!!

か 4つのマスの何の部屋に何が入るか...とか、1組の子たちは見すごしててくれていましたが、

2組の子たちは、けこう「ここが違うー!!」とか言っていました(笑)

あと、持ちネタを何個か考えとくといいです。絵の練習とか、ゲームとか、モノマネとか、なんでもいい人で、「あ! この先生は面白そうだぞ!」と思わせれば勝ちだと思います。1人っかまえれば、他の子たちも集まってきます。

あとは、1年生は、「小学生」というより「この前まで幼稚園に行っていた人たち」と思っている方がいいと思います。すぐケンカするし、泣くし、鼻血だすし、ウツつくし... ええー?! ってなることが大変あると思います。でもみんなとってもかわいいです! 宇宙人ですけど!!

あとは、時計がみんな読めません。短い針がうちにきたらーとかの言いまわしを覚えておきましょう。最後に... 1年生は本当にかわいいです!! 1年生にあたったら授業はむずかしいけど、生活はたのしいですよ!

(1) 実習で苦勞したこと、失敗したことは何か、それをどうやって乗り切ったか

1 学年であればあるほど 気まぐれな子どもたちと遊んだりお話ししたりすることには慣れるのに少し時間がかかりました。外で走って遊ぶことがあまり得意ではありませんでした。教室で絵を描いて遊ぶグループと一糸者にいると、自分の得意なことでも話かせて、みんなと仲良くなることができました。

授業中、どんな発言が生まれてくるかということも考えなければなりません。思いがけない方向に進み、みんなにしっかりと話しかけることができなかったこともあり、指導教官の先生にリベンジの時間を与えてもらったり、色々なアドバイスをいただいて、乗り切ることができました。

(2) 実習に行き初めて分かったこと、嬉しかった出来事は何か

附属の子は、どうしても「大人びている」という印象がありました。初日もとても夏の良い落ちついた子どもたちだなと思ったのですが、3日もすれば、やっぱり他の7歳、8歳の子と同じで、それは当たり前のことだと言付きました。

自分を見てほしい!! と全面にアピールしてくる子や、授業があわつたあとにつつ... と寄ってきて私の手を取る子など、様々な子どもたちがいましたが、みんな、遊んでほしい、こっちを見てほしいという言葉からは同じなんだなあと、ほっこりした気持ちになったことを覚えています。

(3) 2 年生の担当になるにあたって事前の準備、心構え、注意点など

とにかく1年とは必要です! 腕を引っぱられて、あ、ちへ、こちへ、連れていかれます。毎日中休み、昼休みは炎天下の下(今年の気象の問題かもしれませんが)走りまわる覚悟が必要だと思います。

遊ぶ約束もトラブルのもとになることがあります。理屈で対応しても、納得してくれない子どもたちはたくさんいます。うまく柔軟に付き合っていくほうがいいと思います。

授業ではついていけない子(発言も多い)、理解はしているが目立たない子、発言は多くてもあまり理解できていない子、理解していないし、おとなしい子(ついていけない)といろいろな段階の子どもがいます。授業は誰かの発言によって進んでいきますが、常に全体に目を配っていかなければならないと思います。